

みんなにわくわくしながら読んでもらいたい

学校新聞が全校のリーダーになることを目指して

『中川タイムズ』喜びの100号記念号発行へ

第54回(平成16年)全国小・中学校・PTA新聞コンクールで理想教育財団賞を受賞した葛飾区立中川中学校。「新聞がよりよい学校作りの原動力になれば」と話す斎藤由子先生に、4年間の実践についてまとめていただきました。



東京都葛飾区立中川中学校教諭
斎藤 由子

読み手から見た新聞

毎年新聞制作の参考とするため、毎日新聞社見学取材会に参加している。あるとき、新聞記者から興味深いことを伺った。それはユニークな新聞とは次の「アイウエオ」に集約されているという。

「アッ!」と驚く。
「イヤッ!」すごい!
「ウソッ!」と叫び、
「エッ!」絶句...。
「オッ!」感動。

大阪弁だところなるそつだ。
「ほんまかいな。」
「えらいこっちゃあ。」

読み手側から見た、新聞の本質をよく表していて面白いと思った。

4年目を迎えた

『中川タイムズ』

本校の学校新聞『中川タイムズ』の制作発行は、今年で4年目である。

平成13年度以前も横書き2段の生徒会報は発行していたが、それを大きく変え、パソコンを使った縦書き7段のいわゆる新聞形式にした。

新聞作りは生徒会役員6名が担当し、倍近い協力者を得て行っている。今年度は、B4版2面から6面構成、月2、3回の発行で9月初めに記念すべき第100号の発行を目指している。

はじめは新聞作りの方法やパソコンの使い方もわからず大変だった。記事はワードで打ったものを切り貼りし、仕上げた。カットもカット集からの切り抜き。が、号を重ねることに少しずつ進歩していった。

講習会で学ぶ

よりよい新聞作りを目指して、次のような講習会に参加した。

(1) 東京都下水道局水再生センター見学取材講習会

(2) NHK番組取材会
(3) 春休みお菓子工場・平和資料館・新聞社見学取材会

(4) 新聞社新聞作り講習会

(5) 東京都新聞教育研究会主催の新聞作り指導者講習会

(1)は毎年8月に行われ、主に2年生が新聞作りの基礎を学習した。

(5)では、先輩の先生から聞いたことで、今も思い出すことがある。それは次のようなことだ。

新聞を配ったとき、みんなが新聞にくぎ付けになれば成功!あまり読みませず、折って机の中へ。こういうのはもつそれで失敗。たぶん、その後も読んでほもらえない。ということだった。

さらに、読者に読んでもらえる新聞を目指すには、見出しの工夫・文字や文章の読みやすさ・写真や図、

カット絵の効果的な活用などにも配慮しなければならぬ。ほかにも、もつみんなが知っていることを書いてもつまらない、原因や裏事情を取材することで読者を引きつける。そういうことも教えてもらった。

また(2)のNHK番組プロデューサーの話聞く会ではこんなことを学んだ。



中川中学校の生徒たち。読んで面白い新聞作りを目指す



『中川タイムズ』バックナンバー。右から第1号、第24号、第79号、第93号

取材のコツは、笑顔と粘り強さ。よい番組（新聞）を作りたい。それにはまず取材する側が感動すること。勤やひらめきを大事にする。新鮮なネタのつかみ方に注意。きれいだけどあくびの出るような作品はダメということだった。

よい企画とは

これらを踏まえて記事は学校行事、生徒会活動委員会活動、部活動、総合学習の他、地域行事校外活動、また学校生活の問題点にも迫り、生徒の意見、対策・取り組みなども載せるようにした。新聞が学校をよりよくする原動力になればよいと思った。シリーズではこんな記事も載せた。

- ・先生の中学時代
- ・先輩登場
- ・珍しい趣味特技
- ・クラス紹介

これらは興味を引き、よく読まれる記事のトップとなった。

紙面構成のタブー

さらに制作を続けていく中で、さまざまな修正すべき点も出てきた。(3)(4)で新聞記者の話を聞き及ぶうちに、今まで知らずにやってきたことがことごとく間違いと思ひ知らされたからだ。

新聞作りの禁じ手には次のような

ものがあるということだった。

- ・見出しの直列並列はしない。X型になるのがよい。
- ・トップ記事や特集記事には、記事を要約したリードをつける。
- ・段線は左右すきまを作る。
- ・写真カットの顔は左向きは右側に置き、右向きは左に。
- ・エトキ⇒写真の説明はゴシック体。
- ・シリモチ⇒二段以上の見出しや写真紙面の最下段には置かない。
- ・飛び降り飛び越し⇒写真や図表を飛び越えてつなぎ読みさせない。
- ・泣き別れ⇒次の段に続く場合、句点で終わらせない。
- ・ハラキリ⇒最下段はよいが、左右1段横に記事を続けない。

・囲み記事は、段線を引かない。さらに上を目指して

年末には1年分の新聞を綴じ、東京都新聞コンクール、全国新聞コンクールに参加し、入賞することで次号への意欲を駆り立てた。

特に昨年度、理想教育財団賞を受賞したことで副賞に最新型印刷機をいただき、写真印刷がすばらしく向上。ますます生徒や地域の期待も高まっている。

今4代目の生徒会役員が受け継ぎ、100号発行の準備を進めている。特集記事として、歴代の生徒会役員の座談会、わがまち東四つ木の魅力などを載せようと、生徒会役員そして協力者は夏の暑さに負けず、張り切っている。



第99号。次号が記念すべき第100号となる